

2. 京都市二ノ瀬松本家文書調査

島村 朱音

1. 概要

二ノ瀬松本家文書は京都市左京区二ノ瀬町松本家に伝来した文書群であり、現在は松本憲一氏が所蔵している。2023年8月、中村治特任教授により紹介され、今江康弘氏のご協力のもと、同年9月から府立大の文化情報学研究室が主体となり調査を行っている。

調査日程 2023年9月15日・11月6日・11月29日他

調査参加者 東昇（教員）、中村治（特任教授）、橋爪伸子（共同研究員）、長谷川巴南（博士前期課程2回生）、渡邊幸奈（4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上3回生）、上武恒介（1回生）

2. 内容

二ノ瀬松本家文書は複数の箱と文書一括から構成されている。近世から近代の文書が主で、近世は勘定帳、売買証文、年貢覚帳、近代は大福帳、庭帳、土地関係文書などがある。特筆すべき文書には、江戸時代中期の儒学者で林鳳岡の子である林榴岡（『日本人名大辞典』ジャパンナレッジ版、講談社）が延宝5年（1677）に書いた「大学頭榴岡先生洗筆」がある。

2023年9月15日の調査では蔵2か所の内部現状記録、11月6日の調査では蔵2の内部現状記録、目録撮影、文書搬出、清掃を行った。目録撮影を行ったのは蔵2-2-6・7・8・18。通番で撮影し、文書毎の番号は目録採取の際に行う予定である。搬出した9件の文書群は文化情報学研究室に搬入し、Moldenaybe®による殺虫・防カビ・脱酸素処理を行った。現在、文化情報学実習他で番号付与、目録作成を実施しており、今後も調査を継続する。



写真1 蔵内調査の様子



写真2 Moldenaybe® 使用の様子

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
